



製品安全データシート

1. 化学物質及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂 平成21年12月25日

化学物質等のコード : 1300-1130

化学物質等の名称 : L-メントール

2. 危険有害性の要約

分類の名称 : 分類の定義上危険有害物に該当しない。
危険性 : 可燃性であるが、通常の取扱で発火、引火、爆発などの危険性は低い。
有害性 : 飲み込むと有害(区分4)
皮膚刺激(区分2)
眼刺激(区分2A)
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分1)
神経系の障害(区分1)
長期又は反復暴露による肺、神経系の障害(区分1)
環境影響 : 水生生物に有害(区分3)
注意喚起語 : 危険
絵表示、シンボルマーク : 健康有害性、感嘆符

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
化学名 : L-メントール
(別名) (-)-メントール、(-)-メンチルアルコール
メチルプロピルフェニルヘキサヒドリド
成分及び含有量 : 1-メントール、99%以上
化学式又は構造式 : $\text{C}_7\text{H}_{14}\text{O}$ 、 $\text{C}_{10}\text{H}_{20}\text{O}$
官報公示整理番号 : 化審法: (3)-2333
安衛法: 3-(4)-16、3-(4)-216
CAS No. : 2216-51-5
危険有害成分 : 特になし

4. 応急処置

眼に入った場合 : 直ちに流水で15分間以上洗い流し、速やかに眼科医の処置を受ける。
皮膚に付いた場合 : 直ちに汚染された衣服やくつを脱がせる。
直ちに付着部又は接触部を多量の水で十分に洗い流す。
吸入した場合 : 直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気の場所に移す。鼻をかませ、うがいをさせる。
飲み込んだ場合 : 毛布等で保温して安静にさせる。
多量の水又は食塩水を飲ませて吐かせる。
必要に応じて医師の処置を受ける。

5. 火災時の処置

消火方法 :
(周辺火災の場合) 速やかに容器を安全な場所に移す。
移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
(着火した場合) 初期の火災には、大量注水、粉末・炭酸ガス、乾燥砂等を用いる。大規模火災の際には、泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
消火剤 : 大量注水、水噴霧、炭酸ガス・粉末・泡消火剤、乾燥砂

6. 漏出時の措置

できるだけ掃き集めて空容器に回収した後、漏洩した場所は水で十分に洗い流す。

7.取扱いおよび保管上の注意

取 扱 い : できるだけ皮膚等に付けたり吸入したりしないように、適切な保護具を着用する。
保 管 : 密栓して冷暗所に保管する。

8.暴露防止及び保護措置

管 理 濃 度 : 設定されていない
許 容 濃 度 : 日本産業衛生学会 : 設定されていない
ACGIH : 設定されていない
設 備 対 策 : 粉塵の発生する場所はできるだけ密閉化するか、又は局所排気装置を設置する。
保 護 具 : 必要に応じて保護手袋、保護眼鏡、防塵マスクを着用する

9.物理的及び化学的性質

外 観 等 : 白色～淡黄色結晶性粉末、はっか臭
沸 点 : 216
融 点 : 42～44
揮 発 性 : 無
比 重 : 0.90(20)
溶 解 度 水 : 微 溶
そ の 他 : アルコール、エーテル、クロロホルムには易溶。

10.安定性及び反応性

引 火 点 : 96 爆発限界 : 上限 : データなし
下 限 : データなし
発 火 点 : データなし
可 燃 性 : 引火点は高いが、可燃性がある。
安 定 性・反 応 性 : 通常の使用においては安定である。

11.有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

急性毒性 : 経口 該当する5個(LD50 = 2615、2426、940、2046、2602mg/kg SIDSデータ)のラットLD値に排他すべき理由がない。したがって、これら5個の値を用い、指針の計算式より求めた値1611mg/kgに基づく。(JETOC)
経皮 ウサギ LD50 >5000mg/kg(SIDS)
皮膚腐食性・刺激性 : ウサギの試験で"moderately irritating"と評価されている。(JETOC)
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギの試験で"slightly irritating"と評価されており、かつ適用後7日目にはほとんど症状は回復している。(JETOC)
皮膚感受性 : モルモットの試験で一部が陽性であり、かつヒトで皮膚感受性を示唆する複数の陽性反応の報告あり。(JETOC推定)
生殖細胞変異原性 : ラットの優性致死試験(経世代変異原性試験)での陰性。さらに、ラット骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞を用いるin vivo変異原性試験)とマウス骨髄細胞を用いた小核試験(いずれも体細胞を用いるin vivo変異原性試験)でも陰性。(JETOC)
発がん性 : ラットおよびマウスの2年間経口投与発がん性試験で、両動物種とも発がん性の証拠は認められていない。(JETOC推定)
生殖毒性 : ラットおよびウサギの経口投与による発生毒性試験で、母体および胎仔に影響は認められていないが、性機能を含む生殖能に及ぼす影響に関するデータが不十分。(JETOC)
特定標的臓器・全身毒性、単回暴露 : 新生ラットあるいは乳幼仔において備考適用により、重大な影響として三叉神経の反射性無呼吸が報告されている。また、ラットで経口投与により、臨床症状として、麻酔状態、運動低下、鈍麻が記述されている。(JETOC)
特定標的臓器・全身毒性、反復暴露 : ラットの1.68mg/m³(蒸気)(90日補正值: 約0.0014mg/L)吸入ばく露(71 - 79日間)により、病理組織学的に重度の肺のうっ血が認められ、かつ、この濃度はガイダンス値区分1(0.2mg/L以下)に相当する。一方、ヒトでメントール吸入ばく露後中枢神経系への影響、メントール入り煙草を3ヶ月間喫煙後不眠症、歩行不安定、精神錯乱などの症状が報告されている。なお、ラットの経口投与試験で、重大な毒性影響は認められていない。(JETOC)

12.環境影響情報

魚毒性 : ヒメダカ LC50: 26mg/L/48hr
ゼブラフィッシュ LC50: 15.6～17.6mg/L/96hr
その他のデータ : [急性毒性]
オオミジンコ EC50: 26.6mg/L/48hr
藻類 ErC50: 16.2～21.4mg/L/72hr
[慢性毒性]
藻類 NOEC: 9.65mg/L/72hr, 5mg/L/72hr
残留性 / 分解性 : 難分解性(化審法3-2333: p-メントール-1(3,4,又は8)オールとして)

分解度: 0 % by BOD(経産省既存化学物質安全性点検)
生体蓄積性: 蓄積性が無い又は低蓄積性(化審法3-2333として)
濃縮倍率: < 0.5 ~ 15 (濃度 200 µg/l): < 4.6 ~ 11 (濃度 20 µg/l)
(経産省既存化学物質安全性点検)

13.廃棄上の注意

エタノール等の可燃性溶剤に溶かして、焼却炉で焼却処理をする。

14.輸送上の注意

輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確認、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実に行う。

輸送に関する国際規制

陸上輸送	: 規制なし
海上輸送	: 規制なし
航空輸送	: 規制なし
国連分類	: 非該当
国連番号	: 非該当

15.適用法令

労働安全衛生法	: 非該当
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 非該当
消防法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 非該当
航空法	: 非該当

16.その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2000)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会編

このデータは作成の時点における知見によるものですが、かならずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。